ジュッペちゃんの涙（平成 24 年 6 月 11 日）

大中里保育園　園長　塩川寿平

保育の『三つの心』と『三つの見方』を育てよう

私は大学の研究生活時代から人称人格構造論（塩川仮説）について考えつづけています。
それに基づいて大中里保育園の保育方針は『三つの心』と『三つの見方』を最重視しています

①一人称人格の『子ども本人の心』と『大人の側の見方』を明確に育てたい。
②二人称人格の『子ども本人の心』と『大人の側の見方』を明確に育てたい。
③三人称人格の『子ども本人の心』と『大人の側の見方』を明確に育てたい。

以上のように、子どもと大人の『心』と『見方』を三分類して考える仮説理論です。

１，まずはじめに、一人称人格の『子ども本人の心』と『大人の側の見方』について考えてみましょう。

子育てで一番注目しなければならないのは、赤ちゃんは一人称人格から成長するということです。赤ちゃんの自己中（＝自己中心主義）の心を受容することが大切です。

たとえば、おなかがすいても、眠くても泣きます。時と場所は選びません。お母さんの都合や迷惑など考えません。やがて遊び始めますが『名のない遊び』です。絵の具と画用紙を用意して絵を描いてもらうと『ぬたくり画』です。大人から見るとメチャメチャです。

大人の側の常識やルールや先入観ではさっぱり理解できません。しかしながら赤ちゃんの様子をよく見ていると、生きていこうとする力に感心します。誰も教えていないのに「はじめからいきなりオッパイを吸えます」「やがて自分から寝返りをうてます」「そして教育したわけでもないのに自然にハイハイをはじめるのです」・・・等々。

実は、お父さんとお母さんの受精卵の成長の中にすでに教育プログラムが組まれているのです。それを両親からの遺伝子（＝DNA）行動といいます。また別の言い方では、本能による生命活動であると言います。

『子どもは無駄なことを一つもしない』という言葉を大人は覚えておいて下さい。

『子どもは一人称人格という本人自身にとって必要なことしかしないということです』この説明もよく覚えておいて下さい。これを理解できずに腹を立て虐待しないように。

保育園の対象年齢は０歳から５歳（就学前）までです。大中里保育園では自発性と主体性を育てるために「子ども主体の保育（＝保育所保育指針 厚生労働省）」をめいっぱい取り入れた保育を行っていますが、赤ちゃんだけではなく年長さんでも自由な遊びのほとんどは遺伝子（＝DNA）による本能的な生命活動です。だから見守る必要があるのです。

たとえば、木登りやブランコが大好きですが私たちの先祖の猿の時代の DNA です。水遊びが大好きで

すが人類の魚時代と、妊娠中のお母さんの羊水の中で泳いでいた時代のDNAによります。虫を追いかけたり捕ったりするのは狩猟本能です。木の実を集めたり
花を摘んだりするのは採集本能です。何億年もかけて身に付けたDNA活動です。

『大人の側の見方』を大いに改めてください。大人の常識や先入観や都合で、このような子どもの遊びを見るとＡＫＢになってしまいます。Ａ＝危ない　Ｋ＝汚い　Ｂ＝ばかばかしいと・・・見ていませんでしたか？　大人は大いに反省してください。

2，二人称人格の『子ども本人の心』と『大人の側の見方』を明確に育てましょう

二人称人格と言うのは、対人認知の発達過程を言います。家庭生活を中心とした家族関係や、保育園生活を中心とした友達関係を言います。

家庭生活を見てみましょう。お父さんお母さんの役割を理解する。お兄さんやお姉さんや妹たちとの関係の理解。おじいちゃんおばあちゃんの存在を理解する。

具体的には、家族仲良く暮らすにはどうしたらよいか。お母さんの食事の手伝いをする。子どもができること、玄関の靴をそろえる。自分の洗濯物は自分で洗濯機に入れる。お部屋の掃除の手伝いをする。家族みんなで助け合う、等々。

お父さんのパソコンをいたずらしない。小学校のお兄ちゃんの教科書にいたずら書きしない。家族の人が大切にしている物と、自分の大切にしている物が分かる。お母さんから「ごはんですよ」と呼ばれたら、食事の時間にはテレビを見るのをやめる等、家族に迷惑をかけないルールを知る、等々。

保育園の生活を見てみましょう。自己中時代ですからお友達と喧嘩ばかりですが、友達と仲良く遊べるように生活のルールを先生たちが教えてくれているのです。たとえば、「かわりばんこ」に三輪車を使えるようになる。水道で「順番にならんで」手を洗うことができるようになる。みんなそろって『いただきます！』ができるように「待つことが」できるようになる。砂場のバケツを使うとき、同時に手を出してしまった時には、自分より小さい子に「譲る」ことができる。すなわち、保育園独自の作法ということですが、相手の立場に立って行動できるようになるわけです。

このように二人称人格が育ってくると、対人認知が成立して、お友達と話し合いでグループ遊び（＝自治の集団活動）ができるようになります。

相手の立場に立って行動できるように対人認知能力を育てることが、問題行動とされる「噛みつき」「髪の毛を引っ張る」「いきなり突き飛ばす」というような自己中的な暴力をなくす根本的な人間教育なのです。

実は保育園では、先生たちは常に小集団の遊びと生活のなかで問題行動のチャンスをとらえては、このような二人称人格を育てているのです。家庭生活の中では家族関係という基本的な二人称の役割が育ちますが、もっと多人数な保育園という集団生活の中で対人認知の人間関係を学ぶわけです。と言うわけで家庭の役割と園の役割が平等に必要です。

3，就学前の三人称人格は、大人の出番です

三人称人格とは、組織の一員になれますかということです。たとえば、『野球の犠打』のことです。自分は死にますがチームは勝利を収めるという構造です。たとえば、演劇の例で考えてみましょう。ヒーローやヒロインではなく、台詞のない『通行人その１』の役者さんです。という訳で就学前の精神段階では本人たちには理解できませんから、そのような問題解決の方法としては『大人の出番』となるのです。小学生では少しばかり分かるようになるでしょう。中学生から本格的に三人称人格の行動が取れるようになります。

4，結論：

教育とは保育園の年齢で完成するわけではなく、20 歳という独立年齢である成人式までに一人称・二人称・三人称人格の調和のとれた人格を育てあげる過程を言います。

生まれたばかりの赤ちゃんは全く一人称人格です。やがて成長するとともに二人称人格が成立します。ここまでの目標が保育園の役割です。本格的な三人称人格の教育が可能になるのは小学校～中学校の年齢になってからです。

私たちは乳幼児の心理や精神発達を常に勉強して、年齢に見合った生活を援助する『大人の側の見方』ができる人的環境にならなければなりません。

０歳児には０歳児の生活を、１歳児には１歳児の生活を、・・・・・５歳児には５歳児の生活を保障しましょう。そして、すべての子が幸せになれるためには、『どの花見ても綺麗だな』『みんなちがってみんないい』の保育哲学をしっかりと堅持して一人一人の子どもの発達を支えましょう。

私はそのように考えて保育園の経営にあたっておりますので、皆々様どうぞよろしくご理解とご支援をお願い申しあげます。